

第14回甲賀市美術展覧会 審査評

平面 部門

審査員 安土 八重子 前川 秀治

総 評

昨年と比較して、ほぼ同数の作品点数で少し小さい作品が増えたようだ。経験豊かな力作がみられる一方ユニークな驚きと印象深さを覚える秀作もあり、作品のバラエティーに富む傾向が見られた。限られた賞の数からすれば激戦となり、嬉しい悲鳴の難しい審査となった。今後もますます地域の魅力があふれる展覧会となるよう期待したい。(前川)

甲賀市展賞 『 モーツ !! 』

田中 米子

旅行に行かれた時の印象でしょうか。人物の楽しそうな表情が素晴らしい。正面に水牛を大きくもって来られて描きたかった事を見事に表現されています。水墨画六法の一つ「気韻生動」生き生きと伝わる気迫のある作品です。(安土)

甲賀市議会議長賞 『 木漏れ日 』

小川 弘起

木漏れ日が差し込む穏やかな時間帯を感じ、最初日本画かなと思える色調に印象深く拝見しました。下塗りの段階から仕上げに至るまでを計算して仕事をされている素晴らしい作品です。(安土)

甲賀市教育委員会教育長賞 『 百合の部屋 』

熊木 瑠美

部屋の赤と花やシャツ、寝具の白、そして家具の黒、それらの配色が印象強い。花を浮かべる水の清々しさが美しい配色に一層の美しさを添えている。高校生ならではの内面の投影のユニークさが人物の素敵な表情にも感じられる。(前川)

産経新聞社賞 『 夜の大都会 』

田中 たみよ

夜の都会の喧噪とそれに想いを込めた作者の内面が、ライトと闇や朱と緑と青の強いコントラストで表現されている。大きい作品に負けないおおらかな内容と作品の強さを感じる佳い作品です。(前川)

NHK大津放送局長賞 『セピア色の貴生川駅』 **岡田 泰幸**

地域に走る電車の緑と対比的な紫の車両のみを色鮮やかに描き、貴生川駅や山の稜線までを極端に彩度を下げたセピア色で描いている。丁寧な筆致で克明に描いておられる表現の姿勢が、なんとも頼もしい。(前川)

佳作 『風に吹かれて』 **丈野 広子**

階段の表現は難しいですが白い壁とのバランスを上手く描きあげ、特に壁にあたる光と影が成功しています。樹木の緑が風を感じます。(安土)

佳作 『夢想の池』 **堤 智恵美**

水墨画50号Sサイズに挑戦された力作でしたが、おしくも佳作賞となりましたが、樹木の表現、水面の工夫、山々、それぞれにご自分の気持を込めて描かれていて好感を持ちました。(安土)

佳作 『情景』 **大平 晴子**

生活空間の民家が下部に配置され、画面の殆どの面積が山肌か森かの緑の大いなるバランスが印象的である。緑系の色の表現が美しい。(前川)

佳作 『バブル』 **杉本 洋二**

これまでも多くの表現をされてきた方かと思われる。表現の力強さと完成度も高いものを感じられる。(前川)

佳作 『一意一球』 **原田 和泉**

切り絵の白黒の配置配合が美しい。大きい黒い面の中に丸い点々が爽やかさを加えている。飛び上がってキャッチする選手の足下の影が何とも絶妙である。(前川)

佳作 『寒林』 **芝田 俊子**

巧みな空間構成です。水墨画の技法を上手く使われ、冷たい空気を感じます。少し気になったのは部分的に木の肌の黒いところをもう少し工夫されたらどうなったでしょうか。
(安土)

佳作 『鎮守の森(水口)』 **福元 清春**

森の中で感じた空気を掴まれて、柔らかな枝と葉色に樹の生命力を感じます。右下の覗く屋根は要らなかったように思います。(安土)

佳作 『波の花』 **村田 憲司**

自然界の厳しさをどの様にしようかと工夫して表現されている様子が伺えます。外に出て沢山の写生の中から又新しい試みをして下さい。(安土)

佳 作 『 エキセントリック 』

上西 雄飛

錆びた廃車場のフェンスと KEEP OUT の看板のうらぶれた表現が絶妙。後方の現代的な怪物を思わせる妙な大きな物体との対比に不思議な？を覚える。(前川)

佳 作 『 妖精の孵化を表現する 』

岸田 章弓乃

動物か植物かの細胞や卵などの幻想を覚えるような透明感の高い、微妙な形態とその色合いが美しい。額装にもう少し配慮があればよかったと、惜しい思いがした。(前川)

(公社)水口青年会議所賞 (奨励賞) 『 生命の夜明け 』

橋本 みさと

俯瞰した里山の風景を、優しい温かな配色で描かれている。若い作者の濁り無き感性に好感を覚え、今後を大いに期待したい。(前川)

水口ロータリークラブ賞 (奨励賞) 『 待つ 』

荻野 百絵

猫好きの鑑賞者は、誰かまたは何かを待つこの猫の目の表現に感動を覚える。しかし画面下の猫の毛並みの表現がおざなりになっているように思われ、惜しい。大画面に猫の顔という表現のバイタリティーに、今後を大いに期待したい。(前川)

工芸・立体 部門

審査員 飯森 よしえ 西橋 利枝
廣川 みのり

総 評

全体にレベルが高いと感じました。出品数がふえた効果だと思います。技術的に優れた作品も多く研鑽の跡が見られます。賞の選抜に当たってはオリジナリティーを重視しました。(廣川)

甲賀市展賞 『冬きたりなば』 望月 眞寸男

赤い地肌に細かい幾何文を違った手法で表面処理をして作品の厚みを感じさせます。形もよく計算されたバランス良い作品です。(廣川)

甲賀市議会議長賞 『小箱』 富田 富美子

伝統的な細工を水口細工として復興され、工芸品として確立された素晴らしい作品に仕上がっていると思いました。(飯森)

甲賀市教育委員会教育長賞 『二重花瓶六ツ目模様飴釉仕上げ』 上西 久善

細いヒモ状の形態と中の花瓶を一つの形に成形し、キレもなく外のかごの雰囲気もよく出ています。(廣川)

毎日新聞社賞 『秋深む里山越ゆる親子かな』 山本 貞代(貞寿)

スカシ葉が目に映りまわりに秋彩の押し花をあしらって、絵とのコラボが上手。今年の干支がとてもほのぼのと映りました。ただ1つ、遠方の山は雪山でしょうか？もう少しの工夫がほしかったです。(西橋)

びわ湖放送株式会社賞 『南天と杜若』 古河 芳子

南天の葉の色付が自然の色に近く、鮮やかな作品に仕上がっていると思います。

(飯森)

佳 作 『水口ウオールペーパー(壁紙)』 佐々木 つるゑ

たて糸と横糸のバランスが良く、自然の草木の風合いが美しい作品に仕上がっています。

(飯森)

佳 作 『 今年の夏は暑かった・・・。 』 野口 幸子

暑い日を思い出しながら眺めてみました。丁寧な一針一針が努力のたまものとうかがえますが、強烈な暑さを感じとることができなかったのは残念でした。(西橋)

佳 作 『 布絵 タペストリ (流鏑馬) 』 馬場 知代

新しい取り組みに出会った嬉しさです。これからは構図を期待しています。(西橋)

佳 作 『 化粧土扁壺 』 渡辺 耕造

技術もしっかりしていて型染めの様な効果の表面処理がしっくりきています。(廣川)

佳 作 『 アーサー 』 谷口 愛菜

若々しさあふれる楽しい作品です。(廣川)

佳 作 『 山領 』 杉村 大樹

釉のグラデーションが美しいダイナミックな作品です。(廣川)

甲賀ライオンズクラブ賞 (奨励賞) 『 うみ 』 田中 汰一

巨大な魚が・・・。缶ビールの宣伝の文字が有るのに気づき、魚体を見なおすとすべてアルミ缶を切って有る。大変な作業だったことと思います。ポイントになる真っ赤な口、これを発想され、製作されている姿を想像してこれからを楽しみにしています。(西橋)

総 評

昨年より10点増で、皆さんの市展に対する前向きな姿勢に敬意を表し、特に若い人や初めて出された方々の今後のご活躍に期待します。受賞された方の作品は流石に見応えのある秀作揃いでレベルの高さに驚かされました。これからも書文化の発展のため練磨を重ねられ一丸となって市展を盛り上げられますようにお祈りいたします。(北野)

甲賀市展賞 『 陳祐詩 』 田中 天祐

力強い筆致で堂々の作。行間、字間の残された余白が美しい。又、暢達の線が素晴らしい。(森嶋)

甲賀市議会議長賞 『 青柳 』 木邑 匡良

静かな書き出しより、美しい流麗な動きを求め、盛り上がる転の見どころへの意識を自然に高め、最後はキリッと収める。見事の一言につきます。(北野)

甲賀市教育委員会教育長賞 『 夢の花 』 太田 あゆ美

筆力の強弱、墨量の変化、空間を上手く生かして隙なく収めている。全文の造形をよく理解している処に日頃の勉強ぶりの確かさを見てとれる。一層のご精進を祈ります。(北野)

京都新聞賞 『 鄒迪光詩 』 山本 理芳

七言絶句を横型式に書かれた練達の書。骨格の確かさ、筆圧、潤渴の変化も素晴らしくレベルの高さが窺える。(森嶋)

読売新聞社賞 『 綦母潜詩 』 長谷川 暢宇

単体作品でありながら、縦への流れが抜群で相当の実力の方と察せられる。落款の処理も素晴らしい。(森嶋)

佳 作 『 春雨 』 松田 梨葉

前後の表現は大変美しい。中央部はもう少し整理して欲しい。達者な方ですね。(北野)

佳 作 『 孫逖詩 』 高田 芳園

五言律詩の多字数を四行に挑戦された力作。淡々と何の衒いも無く書かれ好感が持てる。(森嶋)

佳 作 『 愼庭筠詩 』 福島 白桜
力強い線條で気の充実が伝わってくる秀作。益々のご精進を祈ります。(森嶋)

佳 作 『 劉長卿詩 』 村田 知晏
一字一字を置いていく様な呼吸で心地良い響きを感じられる。打鼓のリズム感が素晴らしい。(森嶋)

佳 作 『 心清く多くの道あり 』 吉川 温子
余白の美しさがきわだつ作。線状もすばらしい。(北野)

佳 作 『 漢詩句 』 池村 照代
造形の工夫に意識の強い重厚さが見事。(北野)

佳 作 『 漢詩句 』 橘 嘉代子
自在の筆さばきに魅力を感じる。一行下部に一考を。(北野)

佳 作 『 王英詩 』 倉崎 鳴泉
行草の連綿作品。流暢な筆致で優しい雰囲気を感じられる。行間が美しい。(森嶋)

総 評

前年度より応募点数が増え選考にも自然と力が入りました。

全体的に落ち着いた作品が多く、作者の視点がしっかりとした内容の高い作品が多かった様に思います。甲賀市地域の写真文化の高さを感じました。

甲賀市展賞 『世界平和』 成徳 恵美子

構図に無駄がなく、炎の美しい色調と手元の色調に統一感があり、そこから静かな深い祈りを感じ取れます。袈裟の紫も作品全体の品格をさらに高めています。完成度の高い作品です。

甲賀市議会議長賞 『逃げろ！』 山田 幸子

先ず、作者の制作意識の高さが目を引いた作品です。

階段に描かれた絵を大胆な構図で捉え、何より子供の瞬間的な動きが印象的です。センスの良さを感じます。

甲賀市教育委員会教育長賞 『降輪』 中森 敏樹

この瞬間にシャッターを切れる作者の日々の努力を強く感じます。ブルーの色調も大変美しく、丁寧な撮影とプリントワークにも好感が持てる作品です。

朝日新聞社賞 『氷結』 奥村 和弘

一瞬では、造形的でもあり抽象的にも感じられる不思議な魅力を持った作品です。派手な作品ではありませんが、作者の写真哲学がじっくりと伝わる秀作です。

中日新聞社賞 『フェイス』 服部 眞美子

カラーでなく、モノクロで表現された事で成功した作品だと思います。動物のユーモアたっぷりの顔に素直に集中して鑑賞でき、この光線状況も作品の印象を高めています。

佳 作 『水玉のシンフォニー』 村山 和子

画面から、丁寧に一生懸命撮影をされている感覚が伝わります。このタイプの作品が他になく、目を引きました。

佳 作 『佳日寸景』 西出 稔

男性3人の衣装とおそろいの帽子が印象に残ります。背景に、佳日のおめでたい内容が写り込むと更に良かったと思います。

佳作 『黄昏時の涙』 清水 勇哉

目の付け所の良い作品です。ポイントの水滴を中央に配置し、下の黒場を増やす事で内容が深まります。

佳作 『お帰りなさい』 曾我 一彦

シンプルな構成と、効果的な色調が好印象です。人物の格好がもう少し面白ければ、更に上位にいく可能性のある作品です。

佳作 『はだか祭』 森島 輝夫

色調や画質も良く、祭りの熱気が伝わってきます。背中とお尻に文字の入った人物を主役に構成すれば、この作品も更に上位を狙えます。

佳作 『雨の休日』 小谷 博司

不思議な雰囲気を持った作品で、目に留まりました。もっとハイキー調に仕上げ、水中の動物の仕草と形が面白いと作品の完成度が飛躍的に上がります。

佳作 『私の宝物』 杉本 美津子

ごく素直な表現が目を引き、タイトルの内容につながります。猫の目の色を基調に、品の良い色味が魅力的です。

佳作 『相棒で、いいなあ！』 服部 啓治

爽やかな空の色とシンプルな画面構成が印象的です。飼い主と愛犬との関係性を、もう少し表現していただく事を希望します。

佳作 『固む - しっかり守る』 村山 敏子

タイトルに少し不明な点がありますが、猫の生態を見る側に連想させる力のある写真です。撮り方から作者の若々しい感性を感じます。

佳作 『みちくさ』 今元 久美子

子供の一瞬の動きや表情を明確に捉えられています。組写真なのでもう少し物語性を感じさせる工夫があれば、更に楽しい写真に仕上がります。

水口ライオンズクラブ賞（奨励賞） 『帰り道、よりみち。』 歯黒 みづき

何より、フレーム意識の無い画面に惹かれました。

画面からはみ出した子供達に普段の無邪気さが強く現れています。左右の写真の影の扱いがセンス良く効果的です。